2023年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	文学部	氏名	椎原伸博

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

美学や芸術学、現代美術史、アートマネジメントの研究者との理論的研究においては、次の科研提出を見据えて、テーマ設定と参考資料の確認作業を行った。具体的には、芸術学、現代美術史関係では東京芸術大学林卓行准教授、山口大学藤川哲教授との研究会をzoomで6月と7月に行った上で、8月の科研申請の準備を行った。また、アートマネジメント関係では同志社大学太下義之教授へのリサーチや、当時の文献の収集に努めた。

現代美術作家やキュレーター、芸術教育者らの経験に対する実践的研究では、秋田公立芸術大学の曽根博美准教授との連絡を密にとり、90年代キュレーションの実態調査は進んだ。また、90年代の現代アートに影響を与えた、ギャラリストの小山登美夫、池内務氏へのインタビューを行うことで、90年代アートの再評価の基礎的研究は進んだ。

一方、1990年代以降の現代アートの動向が、日本の地方都市においてどのくらいのインパクトを与えているかに関する調査では、奥能登国際芸術祭、広島市現代美術館、尾道市美術館、金沢21世紀美術館、富山県立美術館、札幌国際芸術祭、京都市京セラ美術館、鳥取県立博物館等の現地調査を行うと共に、出来るだけ担当学芸員との意見交換も行った。

また、現代アートのキュレーション研究に必須な文献として、ハラルド・ゼーマン、マチュー・コプランの著作や、現代美術史上重要な展覧会「態度が形になるとき」「大地の魔術師たち展」「非物質展」「空虚展」などの文献調査をすすめ、実践女子大学文学部紀要に「現代美術における展覧会の再展示について「空虚　回顧」展、「態度が形になる時」展、「大地の魔術師達」展をめぐって」という論文を発表した。